

4 児童の「できた!」「分かった!」の質を高める学習過程の一場面 (6/7時)

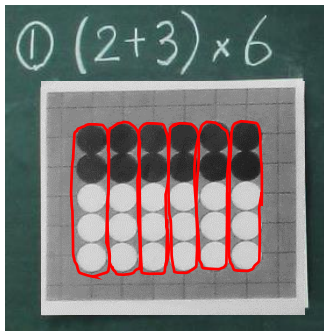
教師と児童のやり取りの詳細

学び合う段階において、式と図を結び付けながら、式の表す意味を説明させたり、捉えさせたりする場面。

※それぞれの式から読み取ったことについて、図を使って発表させていく。



では、どのように求めているのかを図を使って説明しましょう。
最初は、 $(2+3) \times 6$ です。

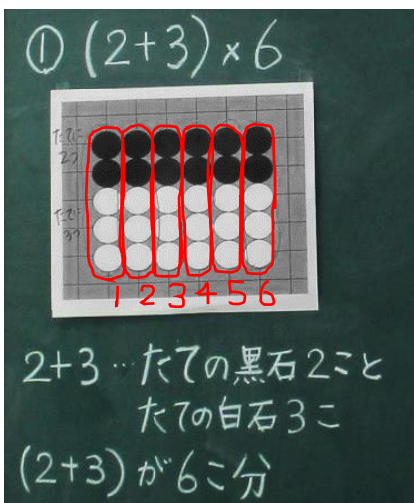


$(2+3)$ は、縦の黒石 2 個と白石 3 個を合わせています。
(板書の図に示しながら) 図で言うと、この部分 (赤囲み 1 つ分) です。それが $\times 6$ なので、この部分 (赤囲み 1 つ分) が 6 個分ということです。



発表した友達は、なぜ、始めに、縦の石の数に着目したと思いますか？

縦の黒石 2 個と白石 3 個を合わせているからだと思います。



$2+3$ に () がついているからです。



※発表者の説明に合わせて板書したり、発表後に時間を設け、児童に確認しながら板書したりして、整理していく。



(児童の発表や発言を基に上のように板書して) この式の () には、どのような意味やきまりがありましたか？

() の中をひとまとまりとみて、先に計算するということです。



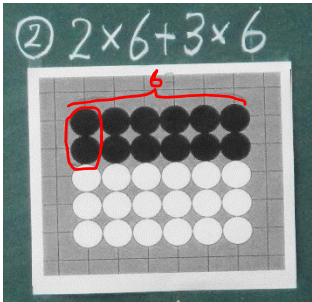
(板書の図に示しながら) 図でも、2 と 3 がひとまとまりになっていることが分かりますね。この $(2+3)$ が 6 個分ということでしたね。



・発表者の考えの根拠となっていることや着目させたいことなどを発問で確認していきます。
式から読み取ったことを図で表現させながら捉えさせることが大切です。



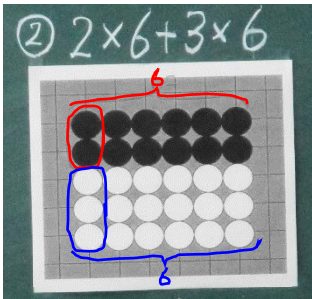
次は、 $2 \times 6 + 3 \times 6$ です。



(板書の図に示しながら) 2×6 は、黒石が縦に2個で、それが横に6個分あるということです。



ストップ!ここまでいいですか? (児童の反応を確認して) では、この続きが分かりますか?



(板書の図に示しながら) 3×6 は、白石が縦に3個で、それが横に6個分あるということです。

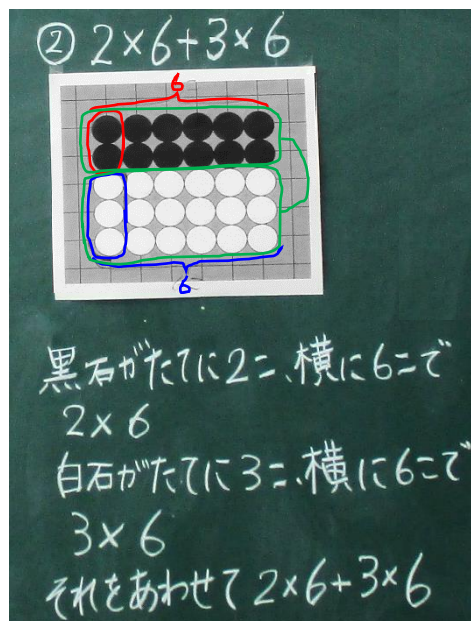


前の友達の続きを上手に説明することができていました。これで終わりですよ?

先生、まだ終わりではないです。



このままでは、この式の全てを説明したことにならないのですね。どのような説明が必要でしょうか?



説明します。最後に 2×6 と 3×6 を足します。(板書の図に示しながら) 図に表すと、この黒石のまとまりと白石のまとまりを合わせるということです。



※発表者の説明に合わせて板書したり、発表後に時間を設け、児童に確認しながら板書したりして、整理していく。



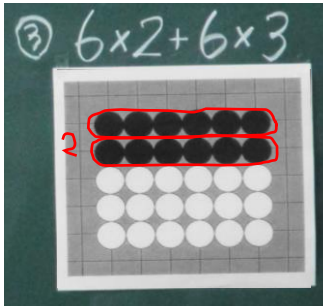
(児童の発表や発言を基に上のように板書して) みんなで式と図を結び付けて説明することができましたね。



・発表者の説明を区切って続きを考えさせたり、過不足なく説明させたりしていきます。そのためにも、教師が児童に説明させるべき内容を明確にしておくことが大切です。



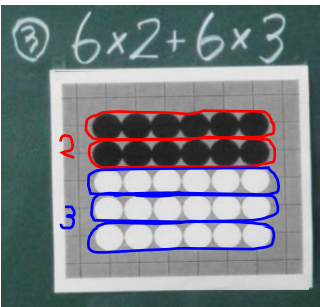
最後に、 $6 \times 2 + 6 \times 3$ です。



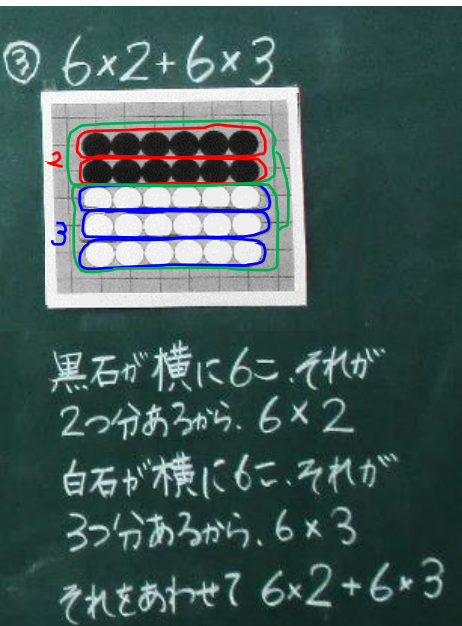
(板書の図に示しながら) 6×2 は、黒石が横に6個で、それが2つ分あるということです。



ストップ! ここまでいいですか? (児童の反応を確認して) では、この続きを2人で説明してみましょう。



続きを説明します。(板書の図に示しながら) 6×3 は、白石が横に6個で、それが3つ分あるということです。



最後に 6×2 と 6×3 を足します。(板書の図に示しながら) 図に表すと、この黒石のまとまりと白石のまとまりを合わせるということです。



※発表者の説明に合わせて板書したり、発表後に時間を設け、児童に確認しながら板書したりして、整理していく。



(児童の発表や発言を基に上のように板書して) これも説明の続きをよく考えながら、式と図を結び付けて説明することができましたね。素晴らしいです。では、今の説明を基に、もう一度、自分1人で説明します。隣の友達に聞いてもらいましょう。



・児童の考えを学級全体で共有することができるように、考えをつながげながら発表させたり、発表したことを再現させたりする場を設定します。説明や理解の確認をペアやグループで行い、全員が発言する機会を適宜取り入れていきましょう。